消化器内科

診療内容・専門分野

当科では、「あらゆる消化器疾患に、いつでも対応する」ことを掲げ、診療しています。常勤医は10名で、それぞれが分担し、外来や検査・治療を行っています。外来業務、内視鏡検査、消化管造影検査は、月曜日から金曜日まで毎日行い、専門性の高い検査や治療は、「消化管」、「肝」、「胆膵」のグループ毎に曜日を決めて行っています。

1） 外来：消化器内科の新患は月曜日ですが、平日は毎日、紹介枠を設け、スムーズな病診連携ができるように努めています。急患には、毎日対応しています。
2） 一般検査：上部消化管内視鏡検査・大腸内視鏡検査・消化管造影検査は消化器内科医が、腹部超音波検査は検査技師が、毎日行っています。
3） 特殊検査・治療：高度で専門的な医療に対応するため、「消化管」「肝」、「胆膵」の3グループを設け、最新且つ最善の医療を提供するように努力しています。

ご紹介いただくにあたって

上部消化管内視鏡検査、腹部超音波検査は、院外からの直接予約が可能です。その際には、結果説明のため消化器内科の外来も同時にご予約していただけると助かります。2016年度より内視鏡検査に際しての抗血栓薬の運用ルールも策定いたしましたのでご確認ください。

また、精査が目的の検査の場合、鎮静処置を要するなど特殊な状況の方は、お手数ですが先に外来受診としてご紹介いただきますようお願いいたします。今後も信頼と安心の医療を提供できますように努めてまいりますので、宜しくお願いいたします。

循環器内科

診療内容・専門分野

【専門分野】

循環器病全般を扱います。具体的には以下の疾患です。

虚血性心疾患（心筋梗塞、狭心症）
不整脈全般
心筋症（肥大型、拡張型、2次性）、心筋炎
弁膜症、先天性心疾患、感染性心内膜症、心膜疾患
心不全、肺動脈疾患
高脂血症、高血圧症(本態性、2次性)など

【診療内容】

・心臓カテーテル検査ならびに治療
≪冠動脈造影、バルーン治療・ステント治療、方向性冠動脈粥腫切除術（DCA）、高速回転冠動脈アラレクトミー（Rotablator、ダイヤモンドバック）エキシマレーザー冠動脈形成術（ELCA）≫
・心臓核医学検査、心臓ペースメーカー植え込み、リードレスペースメーカー植え込み
・心エコー図（経胸壁、経食道）、冠動脈 CT
・24 時間心電図、植込み型心臓モニタ
・心臓電気生理検査、高周波カテーテルアブレーション
・末梢動脈疾患への血管内治療　　等
・心臓リハビリテーション外来



ご紹介いただくにあたって

【一般患者】

循環器専門外来は月～金まで毎日行っています。現在までの経過、投薬内容などを簡単にまとめて循環器外来あてにご紹介いただければ幸いです。急ぎの場合、電話でのご紹介でもかまいません。

【救急患者】

救急患者は 24 時間、昼夜を問わず、迅速に対応できる体制をとっております。疑い症例や確診がつかない場合でもかまいませんので、お気軽に直ちに病院までご連絡ください。

内科（呼吸器）

診療内容・専門分野

1）肺がんの診断と治療

2）気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患の診断と治療

3）間質性肺炎の診断と治療

4）睡眠時無呼吸症候群の診断と治療



ご紹介いただくにあたって

予約センターを通してご紹介、ご予約をお願いします。

内科（腎臓・透析）

診療内容・専門分野

当院腎臓内科の診療内容は以下の三本の柱をうまく統合させ、継続していくことを目指しています。

1　基礎疾患の徹底的な治療

腎臓病疾患は自覚症状がなく手遅れになることも少なくありません。

学校や職場での検尿異常、血圧の異常について腎生検を含めた精密検査を行い、まずきちんとした診断を行います。それにもとづき近年の腎炎治療の動向を敏感に反映した最先端の治療を行います。

2　腎不全を進行させない

基礎疾患を徹底的に治療した後、腎機能障害の進行をくい止めるためには、血圧の管理(130～140/80mmHg 以下)、貧血の管理、低たんぱく食事療法が重要です。計画された食事、降圧薬、尿毒症物質除去療法との併用で腎不全の進行を可能な限り遅らせることを目指します。

3　安楽な健やかな透析を目指す

血液透析療法は、体重の設定、透析膜の選択など透析条件を適切に設定すれば安楽で、長生きできる治療です。透析の条件を個人差に応じ細かく設定し、楽しく安楽に毎日を過ごしていただくことを目標にします。また、当院では腹膜透析療法も積極的に行っています。自分にあった透析療法を選択することが可能です。

ご紹介いただくにあたって

学校検診、職場検診での尿検査異常、血圧の異常などが腎疾患への手がかりになりますので、再検査で異常を認めた場合にはご紹介いただければ幸いです。また高血圧症、糖尿病患者さんで尿検異常、腎機能異常が認められた場合もお気軽にご相談下さい。

腎生検入院は約4日間、食事療法指導教育入院は約 1 週間、ネフローゼや活動性の高い腎炎は1ヶ月から2ヶ月の入院期間が目安になります。

内科（血液）

診療内容・専門分野

血液内科は、貧血や白血球減少症、血小板減少症など血球数の増減を伴う疾患や、白血病やリンパ腫、骨髄腫等の造血器腫瘍などを診療する部門です。

現在、総合病院での外来診療は週３日(月、火、金)です。

入院診療は主として総合病院5階東病棟で行います。病棟には白血病など強力な化学療法を必要とする疾患にも対応できるようクリーンルームが設置されております。

現在、血液内科専門医師 1 名が診療にあたっています。また、山形大学医学部附属病院とも連携し、外来を中心に対応しています。看護師、薬剤師などを含めたスタッフのチームワークで、患者さんがよりよい診療を受けることができるよう心がけています。

ご紹介いただくにあたって

貧血、出血傾向、発熱、肝脾腫・リンパ節腫脹など非特異的な所見のうらに血液疾患が隠れていることも少なくありません。このような異常のみられる患者さんがいればお気軽にご紹介下さい。また、急性白血病、急性血小板減少症など診断治療に急を要する疾患が疑われる場合は、定期の外来日を待たずにご連絡下さい。迅速に対処いたします。

血液疾患は血球数の異常を伴うことが多く、その発現時期が診断の参考になることがあります。ご紹介いただく際には、それまでの血液検査結果があればそのデータも添付いただければ幸甚です。

内科（代謝・内分泌）

診療内容・専門分野

月・火・水・金曜日に診察に出ています。代謝・内分泌分野の取り扱う範囲として、糖尿病、内分泌、脂質代謝などの疾患が含まれます。

糖尿病は、生活習慣の変化を背景に増加の一途をたどり、ますます病診連携を推進することが重要となります。二次医療機関としてチーム医療の理念を基に、教育入院・栄養指導などのシステム化を図り、効率的な医療を提供したいと考えております。患者さんの状況に即した方針をとり、初期の治療効果を確認できたら逆紹介を推進します。他の専門科と協力して合併症の検査も定期的に行います。

内分泌疾患として、視床下部、下垂体、甲状腺、副腎などの機能異常に基づく病態があげられます。ホルモン測定、画像診断、負荷試験などにより、正確な診断と治療に努めます。

甲状腺の腫瘤性病変は、細胞診が必要な例が多いので、耳鼻科にご紹介をお願いいたします。

ご紹介いただくにあたって

紹介時に、臨床診断（疑い）、治療状況、関連するデータを添えていただければ診断確定の参考になります。血糖値の場合は、採血条件（空腹時か食後か）も記入してください。糖尿病診療については、病診連携について説明し、確認した上で診察いたします。また以後のフォローにおいても連携に努めます。

神経内科

診療内容・専門分野

神経内科は、4 人の常勤医（鹿間、岡部、高橋、都甲）と山形大学第3内科神経学分野教授（太田）と公立置賜長井病院院長（栗村）で外来診療を行っています。

新患外来は火曜日水曜日木曜日午後です。再来は火曜日水曜日木曜日です。急性期患者については救命救急センターを介して受け入れています。

神経内科（脳神経内科）の担当する領域は、パーキンソン病、レビー小体型認知症、筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症、重症筋無力症、多発性硬化症、多発性筋炎、筋ジストロフィーなどの神経難病が中心となりますが、急性期病院として、髄膜炎、脳炎／脳症、ギランバレー症候群の緊急入院治療が可能です。また脳神経外科／総合診療科と協力して脳梗塞／脳出血の内科的治療も担当します。

特殊治療としてボツリヌス治療外来（金曜日午後）があり、痙性斜頸、片側顔面痙攣、眼瞼痙攣、上肢／下肢痙縮のボツリヌス毒素治療を行います。神経生理検査（金曜日午前）では一般の神経伝導検査／筋電図の他、体性感覚誘発電位SEP、経頭蓋磁気刺激MEPなどが可能です。核医学検査では、パーキンソン病／レビー小体型認知症の鑑別に有用な DATscan、MIBG 心筋シンチグラフィーも毎週行っています。

ご紹介いただくにあたって

神経内科の新患診察では病歴聴取と神経学的診察が重要ですので、30 分以上の診察が必要です。火曜日午後／水曜日午後と隔週で木曜日午後あるいは午前の新患枠／院内紹介枠にて予約をさせていただいております。1-2 週先の予約になることが多いので急ぐ場合は外来までお電話ください。

なお、紹介時には他院での内服薬処方の確認も必要ですので、全ての内服薬持参かお薬手帳の持参をお勧めします。また同居されているご家族の同伴も頂けるとより詳細な情報がわかる場合があります。採血／MRI 検査などで診断結果は 2-4 週間後になることがありますのでご了承ください。

総合診療科（院内標榜）

診療内容・専門分野

人口の高齢化が進み疾病構成が大きく変化しています。また医療を取り巻く環境が大きく変わってきています。そんな中で、それぞれの専門診療科だけでは対応が困難な症例が多くなっています。そんな患者さんたちを全人的・包括的に診療していくのが総合診療科の役割だと考えます。幅広い年齢層、幅広い疾患を網羅的に診療していきます。その人の人生や家族に寄り添い、その人の気持ちに共感しながら同じ方向を向いた診療を心がけていきます。特に高齢者については、よく見られる疾患が非典型的な経過をとることが往々にしてあります。これらの対応については得意なところと自負しています。介護・福祉・予防を含めた保健活動など地域全体を見据えた対応を通じて患者中心の満足のいく診療にしていきます。

総合病院の役割として、不明熱等の診断に苦慮するところの患者さんへの対応もしていきます。どこがどう、とは言えないが・・・みたいなケースは是非ご紹介下さい。期待に応える診断が出来ないかもしれませんが、期待以上の診療を行うつもりですのでよろしくお願いします。

ご紹介いただくにあたって

外来診療では丁寧な問診、丁寧な診察を通じて迅速、的確に診断していきたいと考えます。外来の枠は数に限りがありますので、予約センターを通してのご依頼をお願いします。診察でなくてもご相談には随時応じて行きたいと思いますので、お気軽にご連絡下さい。

小児科

診療内容・専門分野

当科では、当医療圏の2次・3次医療機関としての役割を果たせるよう日々の診療にあたっています。午前中は一般外来、午後は予約による各種慢性疾患外来や健診、予防接種を行っています。また、血液、神経、代謝・内分泌、循環器、腎臓、新生児、各専門外来を開設しています。



ご紹介いただくにあたって

午前中は小児科外来に電話でご連絡いただき、ご紹介いただくようお願いいたします。午後のご紹介は小児科救急当番医師にご連絡をお願いいたします。専門外来へご紹介の際は小児科外来にご連絡いただくようお願いいたします。

精神科

診療内容・専門分野

精神科では５名の常勤医が診療にあたります。診療内容としては、神経症、うつ病、統合失調症、不眠症、認知症等を中心とする精神科関連疾患の診察と治療です。入院治療は46床の精神科病床で行い、そのうち 5 床は措置病床です。主として急性期治療を行い、短期間（平均在院日数約1か月）の入院加療を目指しています。入院治療では必要に応じて修正型電気刺激療法も行っています。

さらに有床総合病院精神科という特性を生かして身体合併症の治療にあたるとともに、コンサルテーション・リエゾン精神医療を推進することも総合病院精神科の重要な役割と考えています。またリエゾンチームに参加し、サイコオンコロジーにも力を入れています。

なお、救命救急センターを有する有床総合病院精神科の機能を鑑み、緊急性切迫性のある患者さんの診療を優先して行っております。新患予約時には、受診日までお時間をいただく場合もありますのでご了承ください。

ご紹介いただくにあたって

患者さんがいつ頃からどの様な症状が出現したのかをお知らせ下さい。

表現困難な場合は患者さんやご家族の言葉そのままで結構です。

なお、ご専門の診断名や治療期間、処方されている薬剤の内容を詳しくご教示ください。

入院加療が必要と思われる患者さんについては、あらかじめ電話でご相談いただければ幸いです。

消化器外科

診療内容・専門分野

現在８名のスタッフで診療にあったっています。上部消化管、下部消化管、肝胆膵、乳腺、甲状腺の疾患について診療しています。外来では各医師の枠に加え、乳腺専門外来、緩和ケア外来を開設しています。

症例の治療方針について、内科外科合同の術前症例検討会で決定し、術後症例検討会でその経過を報告しています。

手術は低侵襲を目指すべく、鏡視下手術を積極的に行っています。令和 7 年度には手術支援ロボット（hinotori）が導入され、低侵襲かつより精緻な手術手技が可能となってきました。胃癌、大腸癌の症例で施行しています。また、周術期管理を充実させ、生活の質を落とさぬように努力し、患者様の納得いく診療を心がけております。

ご紹介いただいた患者様に対しては、医療情報の行き来をスムーズにし、密な連携を構築していきたいと考えています。

ご紹介いただくにあたって

消化器疾患は基本的に消化器内科へご紹介ください。検査により手術が必要となる疾患であれば、先に述べた症例検討会で消化器外科へ紹介されます。鼠径部のヘルニア、肛門疾患は直接消化器外科への紹介で結構です。また癌性疼痛のコントロール、帯状疱疹後疼痛などは緩和ケア外来にご紹介ください。

乳腺外科

診療内容・専門分野

乳腺外科と標榜していますが、外科的手術を行わない各種乳腺疾患の方も当科で診療しています。

乳腺疾患の診断治療は、放射線科（診断・照射治療）、形成外科（乳房再建等）、薬剤部、認定看護師、がん相談支援センター（仕事や子育て費用の心配等）など多種多様な医療スタッフが互いに情報を共有し、連携・補完し合いながら診療にあたります。治療方針を決める際には、各種ガイドラインやエビデンス（科学的根拠）に沿った標準治療をまずは提示しますが、患者さん、また御家族の意思や人生観を傾聴し、治療による益と害を説明、充分に納得頂いてから治療を開始するよう心がけています（shared decision making）。

乳腺疾患に罹患する方は、AYA（Adolescent and Young Adult）世代の若年者も多く、プライバシーにもできるだけ配慮するようにしています。（鍵をかけた診察室で女性スタッフと共に診察、またはマンモグラフィを撮影する際は必ず女性放射線技師が担当します）

ご紹介いただくにあたって

初診時の診察は原則乳腺専門外来枠で行っていますので、当院予約センターにて予約後、御紹介頂けると幸いです。悪性病変が強く疑われる場合や、症状があり早急な診察を希望される際には、予約時にその旨をお伝え頂ければ対応するように致しますので、お気軽にお声掛け下さい。

呼吸器外科

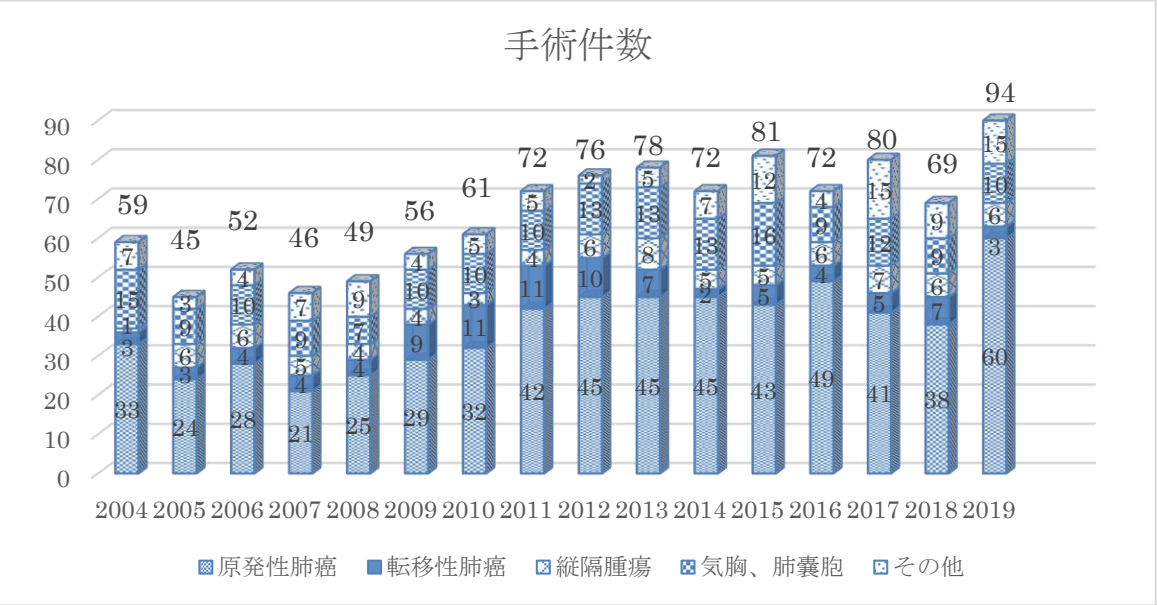
診療内容・専門分野

呼吸器外科では、令和２年から専門医２名による肺がん、自然気胸、縦隔腫瘍などの手術を行っております。年間の手術件数は下グラフのとおりで、年間 90 例以上の手術を行っており、その半数以上が肺がんとなっていますが、最近は漸増傾向です。

肺がんの手術は、ほとんどが胸腔鏡手術で低侵襲の小さな切開で行っています。

クリニカルパスを使って入院日数は10日間以内です。また、OKI-net を積極的に利用しておりますので、ご紹介いただいた患者さんの経過（電子カルテ情報）をインターネットにてご覧頂くことが可能です。

また、呼吸器内科と同じ病棟で「呼吸器病センター」として協働で肺がんの化学療法や分子標的治療、免疫治療等を行っております。呼吸器に関する症例がございましたら、何でもご相談下さい。



ご紹介いただくにあたって

肺がんはまだまだ治りにくい癌です。早期発見、早期治療に勝るものはないと思います。肺がんに限らず胸部に異常陰影がありましたら、どうぞご紹介下さい。毎月、第３火曜日は 18 時 30 分からかかりつけ医参加のオープンカンファをしておりますので、どうぞ見学にいらして下さい。

心臓血管外科

診療内容・専門分野

心臓血管外科医師は、現在常勤医１名体制で診療を行っております。

外来診療は、毎週木曜日のほか、隔週で水曜日に山形大学医師の派遣により診療を行っております。



ご紹介いただくにあたって

ご紹介いただいた患者さんについては、毎週木曜日と隔週の水曜日に診察を行っております。

紹介いただく場合は予約センターまでご相談をお願いいたします。

整形外科

診療内容・専門分野

医師会の諸先生方にはこれまでも総合・長井・南陽・川西の各病院に、ご紹介いただき、また逆紹介の形で患者さんをお引き受けいただき、深謝いたします。

当院整形外科は林医療監を筆頭に整形外科医師 10 名で診察にあたっています。外来は月曜日から金曜日の午前中毎日行っています。脊椎外科、膝関節外科、股関節外科、手の外科、肩関節外科に関しては、専門医がおり、専門外来も設けておりますので、外来診療体制を参考にしていただければ幸いです。

上記以外にも骨粗鬆症・関節リウマチ・足の外科など整形外科一般、さらに、併設されている救命救急センターと連携して、外傷患者に関しては常時対応可能な体制がとられています。

今後も、病診連携を強め、地域医療の発展に努めていく所存ですので、御協力よろしくお願いいたします。

ご紹介いただくにあたって

予約センターを利用し、専門外来への予約をお願いします。

急患につきましては、随時対応いたします。

脳神経外科

診療内容・専門分野

当科では脳卒中、頭部外傷の急性期治療を主に行っています。

近年の高齢化に対応し、より侵襲の少ないカテーテルでの脳血管内治療、神経内視鏡での手術を中心にしています。

特に急性期脳卒中の診療には力を入れており、神経内科、総合診療科、救命救急部、リハビリテーション部等と協力して、総合的に早期治療を行っています。

脳梗塞に対しては、発症後 4.5 時間以内の場合、積極的に rt-PA(アルテプラーゼ)静注療法を行っています。改善が得られない場合、血管内治療による機械的血栓回収療法を行うことができます。

くも膜下出血に対しては、血管内治療による脳動脈瘤コイル塞栓術、脳内出血に対しては神経内視鏡による脳内血腫除去術を行っており、高齢者に対しても根治的な治療ができるようになっています。

また、治療可能な認知症の一つとして特発性正常圧水頭症があります。当科では腰椎穿刺により髄液を抜くタップテストを行い、効果判定後、最新の MRI 対応のシャントバルブを用いた脳室腹腔シャント手術を行っています。

ご紹介いただくにあたって

急性期脳卒中では早期診断・治療が重要です。情報が不十分でも結構ですので、遠慮無くご連絡をお願いします。

また、最近頸動脈狭窄症が増えてきています。頸動脈狭窄症に対するステント留置術も積極的に行っています。

未破裂脳動脈瘤、頸動脈狭窄症、特発性正常圧水頭症などに対しては、検査から積極的に行っていますので、ご遠慮なくご紹介を頂けますようお願い申し上げます。

形成外科

診療内容・専門分野

【形成外科診療日】

月・木曜日の午前:菊地憲明・渡會咲耶　火曜日午前:池山有子/山形大学医師

【診療内容】(日本形成外科学会の診療分類に準じます)

1) 新鮮熱傷

体表面積 30%ほどの広範囲熱傷から暖房器具、野焼きや就労に伴う熱傷

2) 顔面骨骨折・顔面軟部組織損傷

眼窩底骨折、鼻骨骨折、頬骨骨折、上顎骨骨折、顔面・頭部の動物咬傷、顔面外傷全般

3) 唇裂・口蓋裂

山形大歯科口腔・形成外科作成の治療計画に従い、出生直後から丁寧に診療させていただきます。

4) 手足の先天異常、手の外傷・外傷後の瘢痕、拘縮

5) その他の先天異常

舌小帯短縮、筋性斜頚、臍ヘルニア・突出症、耳前瘻孔、副耳、頚耳、側頚瘻

外耳形成異常(袋耳、埋没耳、小耳症など)　新生児期の耳介変形に対する樹脂を使用した外来保存治療

※当院で出産したお子さんの新生児検診を実施しています。

6) 母斑、血管腫、良性腫瘍(非観血的治療例も含む)、新生児血管腫、小児血管腫など内服治療を要するもの

小児科医と協力した薬剤(ヘマンジオル内服)治療　リンパ管腫の治療

7) 悪性腫瘍およびそれに関連する再建手術

自家複合遊離組織移植、動脈皮弁形成による再建

8) 瘢痕、瘢痕拘縮、ケロイド

外傷後、手術後のキズが気になる方

9) 褥瘡・難治性潰瘍

脊髄損傷者で車椅子生活者の治療・指導、寝たきり生活者の治療

下肢血行障害に伴う潰瘍治療、潰瘍、各種外科手術後の創傷治癒遅延、局所陰圧閉鎖療法

10) その他

乳癌術後の一次・二次再建、眼瞼下垂、眼瞼内反・外反症、睫毛内反、内眼角部贅皮(蒙古襞)の形成、巻き爪変形(単純な爪周囲炎ではなく高度な巻き爪変形の治療)、多汗症、腋臭症、位置性頭蓋変形(疾患によらない頭蓋骨変形に対するヘルメット治療)

ご紹介いただくにあたって

常勤医師が三名となり外来診療体制がかわりました。キズの治療でお悩みの際には御遠慮なくご紹介いただければ幸いです。

産婦人科

診療内容・専門分野

月曜日から金曜日までの午前中が通常の外来診療となります。午後は、月曜日と水曜日が全身麻酔下の手術、ほかの曜日には自科麻酔の手術や特殊検査などを施行しています。また、水曜日の午後は母親学級、金曜日の午後には産褥1カ月健診を行っています。



ご紹介いただくにあたって

緊急を必要としない患者さんのご紹介につきましては、予約センターを通してご紹介いただきたいと存じます。緊急を必要とする患者さんの場合には、まず電話でご一報ください。なお、母体搬送の受け入れは、小児科医との申し合わせにより、原則として妊娠 34 週以降とさせていただいております。

眼科

診療内容・専門分野

当院眼科では、月曜日から金曜日までの午前中が通常の外来診療となっています。急患や急を要する紹介患者さんには随時対応させていただいております。

月曜日と水曜日と金曜日の午後は、予約診療として種々の眼科的検査、レーザー治療、白内障などの術前検査等を行なっております。また、眼腫瘍センターを開設し、あまり頻度は高くはありませんが重要な疾患である眼腫瘍の診察も行っております。

火曜日と木曜日の午後は手術日としており、主に白内障手術や外眼部の手術を行っております。

当科での手術を希望される患者さんは、全身的な基礎疾患を持っておられる方が多く、他科の諸先生のご協力を仰ぎつつ万全の体制を整え行っております。そのため、白内障手術は、日帰り手術ではなく入院していただき治療にあたっています。



ご紹介いただくにあたって

眼科疾患には、糖尿病網膜症をはじめ、網膜静脈閉塞症など内科的な疾患と密接に関係したものが少なくありません。ご紹介いただく際は、血糖や血圧のコントロールの状態なども併せて教えていただければ幸いです。

耳鼻咽喉科

診療内容・専門分野

一次から三次までの幅広い地域医療をカバーするため、山形大学耳鼻咽喉科教室の協力のもとに、基幹・サテライト病院において一貫した診療を行っています。

〔外来診療〕

基幹病院・長井・南陽のサテライト施設において外来を行っています。

基幹病院の外来では、頭頚部腫瘍やめまい疾患、各種検査、簡単な手術など時間や設備・スタッフを必要とする患者さんを中心にしています。

基幹病院での新患受付は午前中のみですのでご注意ください。

サテライト病院の外来では、急性中耳炎や鼻炎の一次医療、慢性期の落ち着いた患者さんや良性疾患の術後の治療等、外来診療主体で対応できる患者さんを中心に診療しています。

サテライト病院の外来は、午前中もしくは午後の半日診療のみですので、曜日と時間帯にご注意ください。

〔入院診療〕

入院診療は基本的に基幹病院のみで行っています。急性扁桃炎といった疾患から、めまい・難聴・顔面神経麻痺、頭頚部の悪性腫瘍まで幅広く診療しています。最新の放射線治療や化学療法にも対応しており、県南の頭頚部腫瘍治療の中心となっています。

ご紹介いただくにあたって

ご紹介は、基幹病院予約センター（TEL:0238-46-5700）にご連絡いただき、基幹病院耳鼻咽喉科（月～金、午前）までお願い致します。診療予約をお取りします。

緊急入院の必要な患者さんをご紹介頂く際には、救命救急センターまでお電話にてご連絡下さい。

泌尿器科

診療内容・専門分野

1）悪性腫瘍

腎癌、腎盂癌、尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、陰茎癌、精巣癌の診断と治療を行います。手術療法、放射線療法、化学療法、免疫療法が可能な設備が整い、集学的治療が可能です。

2）排尿障害

排尿困難、頻尿、尿失禁などの排尿障害に対して診断と治療を行っています。特に前立腺肥大症に対しては経尿道的前立腺切除術を行っており、多くの患者さんがスムーズな排尿状態を取り戻しています。

3）尿路感染症

膀胱炎、腎盂腎炎をはじめとし、精巣上体炎、前立腺炎、尿道炎の治療を行います。

4）尿路結石症

レーザー砕石装置を用いる外科治療が出来ますので、あらゆる結石に対応可能です。

5）女性泌尿器科

女性に多い尿の病気

尿失禁

過活動膀胱、間質性膀胱炎、骨盤臓器脱などに関して保存的治療を行います。

手術が必要な症例については他病院との連携をもち治療いたします。

6）その他

男子不妊症、勃起不全、尿路奇形は他病院との連携をもち治療いたします。

ご紹介いただくにあたって

緊急の場合を除き予約を取っていただくようお願いいたします。緊急の際には泌尿器科外来に電話をいただきたく存じます。水曜日は手術日のため非常勤医が外来診療を担当しています。

歯科口腔外科

診療内容・専門分野

口腔内には、口腔感染症（顎炎、峰窩織炎、顎骨骨髄炎など）、口腔腫瘍（良性腫瘍、悪性腫瘍）、顎骨嚢胞（歯根嚢胞、含歯性嚢胞など）、外傷（顎骨骨折、顔面外傷、歯の脱臼など）、顎関節疾患（顎関節症、変形性顎関節症など）、口腔粘膜疾患（口内炎、白板症、扁平苔癬など）、顎顔面奇形（口唇裂、口蓋裂など）、顎変形症（下顎前突、上顎前突など）、埋伏歯（親知らず、過剰歯など）など多彩な病変が発症します。歯科口腔外科はこれらの疾患の治療を行っていますが、悪性腫瘍や口唇裂、口蓋裂、顎変形症に関しては、山形大学医学部歯科口腔外科・形成外科および当院形成外科と連携して治療を行っています。

当科では CT、MRI、シンチグラム、歯科用デジタル X 線などの最新の画像診断装置を用いて、的確な診断のもと治療を行います。比較的小さな嚢胞、腫瘍、さらに頻度の高い埋伏智歯などは月、火、木、金の午後に外来で手術を行います。重症例や大きな病変および、埋伏智歯などで深い位置にあるもの、同時に複数の智歯を抜歯する際には、入院して手術することになります。

なお、上記の口腔外科的疾患のほか、全身的な疾患により抜歯などの観血的処置がリスクを伴い、かかりつけ歯科医院では治療が困難な患者さんの治療などにも対応いたします。この際、リスクの程度や治療の内容によっては短期間の入院治療も可能です。

また、むし歯、歯周疾患あるいは外傷などで歯が喪失した場合は、通常ブリッジや義歯を装着して治療します。これらの治療で十分に噛めない場合や、違和感があり義歯が装着できないときは、チタン製人工歯根を用いた歯科インプラントによる治療にも対応しています。

当科では一般的なインプラント治療のみならず、歯槽骨が少ないためにインプラント治療が困難な患者さんに対して骨造成手術（GBR、骨移植術、上顎洞底挙上術など）を行っています。また、腫瘍、顎骨骨髄炎、外傷等により広範囲の歯槽骨・顎骨欠損を生じた症例に対して適用される健康保険によるインプラント治療も行います。

ご紹介いただくにあたって

当科は、主として地域のかかりつけの歯科医院の先生方と連携体制を取り、上記の口腔外科疾患を中心とした治療を行っております。円滑な外来診療のため、必ず事前予約をした上で紹介状を持参していただくようお願い致します。また、依頼治療終了後は、むし歯、歯周疾患、義歯や差し歯などの一般歯科治療に関しては、紹介医、近医にお願いしておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

皮膚科

診療内容・専門分野

皮膚科は常勤医師がいないため、外来は水曜日と金曜日に山形大学から非常勤医師の応援を受けています。湿疹、皮膚炎から、高齢化社会に伴って増加してきた皮膚腫瘍まで幅広く手がけています。

今後、充実した病診連携を図っていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。



ご紹介いただくにあたって

皮膚疾患は目に見えるものなので、患者さんも気になります。特に中高年の帯状疱疹は、後遺症としての神経痛を残さないためにも発症初期の治療が大切です。早めにご紹介いただければ幸いです。

麻酔科

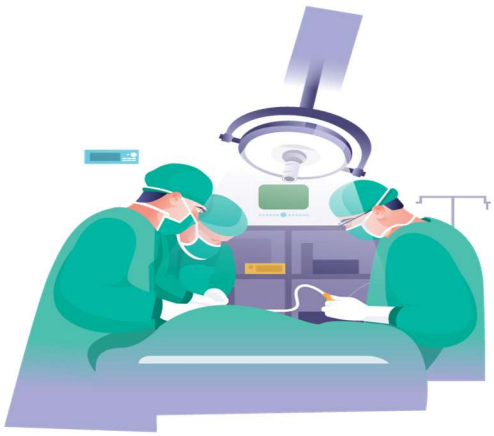
診療内容・専門分野

手術室内での麻酔管理が麻酔科の仕事の中心となっております。医療技術の発達に伴い手術術式も多種多様になっており、そのニーズに対応できるよう麻酔科も日々努力しております。手術室に常設してある麻酔器及び患者バイタルモニターは、定期的に更新し常にメンテナンスを行い安全性の向上に努めております。また、手術室セントラルモニターには常時各手術室内の様子（手術室内や術野の画像）や手術中の患者さんのバイタル（血圧や脈拍、SpO2 など）が表示されるようになっており、いち早く術中の急変に対応できるような仕組みが整備されております。

麻酔科は日常的に呼吸・循環管理等の全身管理を行っており、その延長として ICU の重症患者さんの全身管理の一端を担っております。また、放射線部で行われている血管内手術でも状況に応じ麻酔依頼を受けており、近年手術室以外へも活動の場が広がってきております。

昨年から当院でも救急救命士の挿管実習を再開しました。

置賜地方の地域の医療水準のボトムアップを目指して日々活動しております。



ご紹介いただくにあたって

麻酔科外来(ペインクリニック)は、現在、休止しております。

放射線科

診療内容・専門分野

主な装備機器は以下のとおりです。

●放射線診断:マルチディテクタ CT(2管球(256 列)、320 列)、MRI(1.5 テスラ、3.0 テスラ)、頭腹部血管撮影装置、心臓血管撮影装置、X線透視検査装置、一般単純X線撮影装置(DR システム)、乳房・歯科用パノラマ・骨塩骨密度定量測定装置

●核科学検査:SPECT-CT 装置

●放射線治療:高エネルギーX線・電子線治療装置、照射計画用 16 列CT

これらの機器を駆使して診断・治療を行い、報告書を作成いたします。

画像はデジタル記録・保管を行い、参照はモニター上で行います。



ご紹介いただくにあたって

CT、MRI による検査は、インターネットによる紹介予約システムか、予約センターを介して予約をお願いいたします。

放射線治療や IVR など、放射線科が治療に関与する症例でも、患者さんの入院や経過観察などへの対応は概ね関連診療科に依頼することとなります。

病理科

診療内容・専門分野

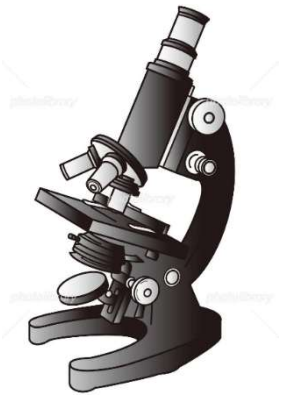
病理科は、昨年 4 月より、常勤医師 1 名、非常勤医師 3 名の体制で業務（主に病理診断、細胞診断）をおこなっております。また、臨床検査部の病理担当部門の臨床検査技師 5 名（うち 3 名は細胞検査士兼任)、事務職員 1 名が標本の作製、管理、各種染色などを分担しております。

当院での病理診断はあらゆる分野にまたがっており、消化管粘膜の生検、皮膚の生検、呼吸器生検、乳腺腫瘍生検、肝生検、腎生検、口腔粘膜生検、骨髄クロットや骨髄生検、筋・神経生検、手術で切除された消化管、胆・肝・膵臓、肺、腎・泌尿器、女性生殖器、男性生殖器、骨・軟部組織、神経・筋組織などを対象にしております、さらに細胞診についても、尿、胆汁、体腔液、婦人科臓器や呼吸器の擦過・洗浄液など多岐に渡っています。これらの病理・細胞診断の他に、コンパニオン診断として、乳癌、胃癌、大腸癌の HER2 の発現、乳癌におけるホルモン受容体の発現の検討をしております。

検討の手段としては、通常染色での組織・細胞診にとどまらず、最新の染色装置を導入し、約 90 種類の抗体を用いた免疫組織化学、In situ Hybridization、蛍光抗体法などを駆使しており、特殊な検索を除き、大部分の疾病をカバーしうるレベルでの診断結果を提供し､院内外での診療を支援しております。

ご紹介いただくにあたって

○ 当院を受診あるいは紹介される際に、すでに病理検査がなされてるいる場合には、その検査で用いられた標本（プレパラート）をご持参いただくことで、それに対する当院での病理検査が可能です。この場合、しばらく当該病理標本（プレパラート）をお預かりすることになりますが、検査終了後、返却いたします。もし、その標本を用いての、さらなる病理検索が必要な場合には、未染色の切片あるいはパラフィン・ブロックを用意していただければ追加の検討も可能です。



○ 当科は、セカンドオピニオンにも対応しており、病理診断についてのセカンドオピニオンを希望される場合には、相談窓口、あるいはがん相談支援センターなどへお問い合わせください。

○ 当科では、コンサルテーションへの対応もおこなっており、難解症例の病理診断や細胞診への対応について、複数の病理医での検討を随時実施しております。

○ 山形県では病理専門医が大変少なく、さらに村山地域に偏在しており、置賜医療圏での常勤の病理専門医は 2 名のみです。このような状況でも、地域の皆様へ、適切かつ的確な病理学的サービスをお届けできるよう本院では、様々なこころみをおこなっておりますので、是非、ご活用ください。

臨床検査部

検査内容

臨床検査部では検体検査ならびに生理機能検査をおこなっています。

検体検査では成分分析検査として生化学・免疫検査、尿一般検査、血球算定検査、凝固機能検査を行っており、24時間体制で救命センターから出された検査にも対応しています。

外来患者検体は1階中央採血室で採血・採尿を行い、3階の検体検査室に検体を搬送し検査を行います。院内で測定している検査に要する時間は、診療前検査に対応するため概ね採血してから1時間以内の報告を目指しています。

保有する機能は生化学・免疫検査装置（2台）、血球算定装置（2台）、凝固機能検査装置（2台）、血液ガス分析装置、尿定性分析装置（2台）、尿中成分分析装置、血糖・ヘモグロビン A1c測定装置を有しています。情報システムは検査部門専用のシステムを病院の電子カルテシステムに接続し、測定機器からオンラインで結果が送信され、臨床での参照が可能となっています。

また、微生物検査では第二種感染症指定医療機関として対応できる機能および機器を整備しております。遺伝子検査では結核菌・新型コロナウィルスや各種細菌の耐性遺伝子の検出も行っています。

生理検査機能では、循環機能検査（心電図、負荷心電図、ホルター心電図、CAVI+ABI）、神経機能検査（脳波、神経伝導検査）、呼吸機能検査（肺機能、終夜睡眠ポリグラフ）、超音波検査（腹部、心臓、甲状腺、頸動脈、下肢血管）などの検査を行っています。超音波検査においては、当日の枠外依頼や救命救急センター依頼にも対応しております。

当検査部は日本臨床検査技師会の精度保証認証制度における認証施設であり、精度の高い検査結果を臨床に報告できるよう日々の管理に努めています。

ご紹介いただくにあたって

超音波検査においては、検査のみの予約が可能となっております。

〇超音波検査項目…腹部、心臓、甲状腺、頸動脈、下肢血管

その他の検査は診療科の指示で行いますので、関連診療科に患者さんをご紹介いただくようにお願いします。

輸血部

検査内容

血液型や不規則抗体検査、交差適合試験などの輸血検査のみならず、血液製剤の受注発注、保管管理を担当し、血液製剤を一元的に管理して、院内およびサテライト施設の輸血医療を安全かつ適正に実践するためのセンターとして機能することが役割です。

スタッフとして部長（医師）、副部長（医師）、技師長の他に、臨床検査技師 3 名が配置されています。夜間休日は臨床検査部技師と合同で当直体制をとり、24 時間輸血業務にあたっています。また、院内の輸血療法委員会とともに自己血輸血を推進し、手術時の準備血液量や術中輸血量の適正化をはかり、血液製剤の備蓄量、廃棄量の削減に取り組んでいます。

設備としては、全自動輸血検査装置、GVHD 予防のためのガンマ線血液照射装置などがあり、また末梢血造血幹細胞の採取・処理・保存・算定が可能な設備を備え、悪性腫瘍の患者さんに対する自己末梢血幹細胞移植にも参画できる体制にあります。

ご紹介いただくにあたって

輸血にあたっては、担当診療科で説明同意を得た後に、事前検査、製剤発注をする必要がありますので、まず担当科に御相談下さい。

救命救急センター（救急科）

診療内容・専門分野

当センターは各診療科参加型の救命救急センターで、循環器、呼吸器、消化器疾患、脳血管障害、外傷等幅広く救急患者を受け入れ、高度な医療を提供しています。

診療の主な対象は、救急隊によって現場から救急搬送された患者さんと、地域の医療機関や介護福祉施設から緊急にご紹介いただいた患者さんです。

ご紹介いただくにあたって

○緊急に診察が必要な場合（当日診療希望）は、当センターへ電話連絡の上、紹介状を FAX でお送りください。

○来院時の意識やバイタルサイン、院内トリアージで決定した緊急度を指標にして、診療の順位や優先度を決定しています。

○初療は、平日日中は救急科医師と救急科研修医が、夜間・休日は日当直医（診療科医師）と副直医（研修医）が行います。専門的な検査や治療を要する場合は、初療を担当した医師から各診療科医師に引き継ぎます。

○南陽市東置賜郡医師会と長井市西置賜郡医師会にご協力いただき、平成 21 年度から平日夜間共同診療をお願いしています。令和 5 年度は平日のうち隔日で診療を行っていただいています。

リハビリテーション部

診療内容・専門分野

当部は，骨折術後や人工関節置換、腱板術後を主とする運動器疾患、脳卒中などの中枢性疾患、心不全などの心疾患に対するリハビリテーションを主に行っております。その他、糖尿病の運動療法、呼吸及びがんリハビリテーションにも力を入れております。

また、言語障害や摂食嚥下障害に対しても嚥下内視鏡検査（VE）や嚥下造影検査（VF）での診断をもとに治療を行っております。

【設備のご紹介】

①大腿の筋力を測定するコンビットや、全身の筋力を客観的に評価するモーヴィーを用いての訓練を計画します。また、心電図を装着しながらの自転車エルゴメーター等、安全面にも配慮したリハビリを行っています。

②日常生活動作機器として、キッチンユニット装置、トイレ昇降装置、浴室システム装置、昇降式和室装置、リハビリ公園等で、早期にご自宅や生活環境に近い状況を再現し、日常生活動作訓練を行うことが可能です。

③高精度体成分分析装置（インボディー）を設置しており、体内の筋量、脂肪や水分量の計測が可能です。

④療法士がオーダーメイドでスプリントや補装具を作成し、患者さんの日常生活を支えるお手伝いをいたします。

⑤糖尿病療養指導士・呼吸認定療法士・心臓リハビリテーション指導士・心不全療養指導士・NST専門療法士など資格を持った療法士が在籍しており、より安全で専門性の高いリハビリテーションを提供いたします。

ご紹介いただくにあたって

ご紹介いただくにあたっては、訓練を担当する理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が、患者さんの全体像を正確に把握するため、病歴や注意事項・禁忌事項をできるだけ明確にお伝えいただけますようお願い申し上げます。